



## 1 学期を振り返り、自分の成長と課題をつかもう！

観測史上、最も遅い梅雨入りとか。紫陽花の花も雨に濡れ、心なしか美しさを増したようです。平素は聖母の小さな学校の教育にひとかたならぬご協力をいただき、深く感謝しております。

聖母の小さな学校は、創立 30 年になりました。その間、250 名程の生徒が聖母で学び、社会的自立を遂げていきました。生徒たちは原籍中学校とのかかわりの中で、集団や先生たちとのつながりの練習をしたり、高校という社会の中での自分の在り方に悩んだりしながら、聖母で「自分を見つめ、本当の自分、新たな自分を見つけた」体験を思い起こし、そのことを力にして歩んでいくようです。そして、どのような状況の中でも 1 人ではない、もう一人の他の人間に胸襟を開いて自分の事を話し、また、気持ちを伝え、少しほっとする。卒業生たちが聖母に来て、ひとしきり話をし、「こんな話、誰にでも分かってもらえることではないし、ここで話ができて本当に気が楽になった」と言います。「ネットではなく、顔を見て、声を出して人と交わる」。こういう力をしっかりつけておきたいと思います。今の社会では、こういう力を付けることが本当に難しくなっています。「人間同士の交わり」を意識して生活し、教育したいと思います。年間の行事も多種多様です。7月22日(月)に予定している「カヌー教室 in 和知」もその一つです。公募しますので、聖母以外の生徒も参加してください。

去る5月26日に開催いたしました五月祭は、卒業生、現役生、保護者、教えて下さっている先生方50名程が集いました。卒業生たちを見て、現役生また保護者は勇気をもらい、教える側も、彼らの自己認識また進路についての考え方や行動力の成長ぶりに、改めて拍手を送りました。年間を通しての体験学習に於いては、茶道(月2回)華道(月1回)陶芸(月1回)をいたします。これらの学習は、能動的に知を得る学習であり、頭だけでなく自分自身の全体を動かす、その感触を認識することを通して自己の深い所の思いが動いて行動に表れるという学びです。例えば、話すことができなかつた生徒が、話したいことがあることに気づかされ、言葉が形成され、発語に至る、というようなことは、一つの典型的な例です。現在、聖母に籍を置く4名の生徒たちも、家から外に出ること、人と会うこと、人と話すことなどがなかなかできませんが、徐々に力を付けてきています。毎日、朝起きることができるようになった、聖母に登校することができるようになった、出席を付けて帰れるようになった、1時間、先生と過ごすことができるようになった、などと行動の幅を広げています。今後も生徒それぞれの歩みを大切に教育を続けていきます。また、悲しいことですが、「陶芸教室」でお世話になっていた佐織保男先生が、6月24日に逝去されました。先生は舞鶴市陶芸館初代館長でした。陶芸館長在位中は陶芸館で、また退任されてからは自宅のアトリエで、26年間にわたり教えていただきました。長い教員、また管理職の経験のもと、不登校の生徒たち1人1人を丁寧に受け止め、現在の生徒の状況を見極め、その子供の側に立って励ましてくださいました。本当にありがとうございました。感謝と共に、ご冥福を祈ります。

### <今月の主な行事>

10日(水) ギター教室  
 12日(金) ボランティア  
 16日(火) 中国語教室

18日(木) 華道教室  
 19日(金) 1学期終業式  
 21日(日) 学期末保護者会

22日(火) カヌー教室 in 和知